

令和2年度宮崎県森林審議会長期計画部会（第2回）審議概要

NO. 1

| | | | |
|-----|---|-----|------------------|
| 日 時 | 令和2年8月28日（月）10:00～12:00 | 場 所 | ホテルメリージュ3F（鳳凰の間） |
| 委 員 | 出席：緒嶋雅晃、黒木定藏、黒田奈々、高嶺清二、中尾登志雄、長友幹雄、前田隆雄 | | |
| 事務局 | 環境森林部長、次長（総括）、次長（技術担当） 林業技術センター所長、木材利用技術センター所長 環境森林課長、自然環境課長、森林経営課長、山村・木材振興課長 他 | | |
| 開 会 | ○環境森林部長あいさつ ○宮崎森林審議会会長あいさつ ○議事 1 素材生産量の設定について 2 第八次宮崎県森林・林業長期計画（素案）について | | |
| 委員 | <p>1 素材生産量の設定について</p> <p>・190m³の設定について、現状は皆伐がほとんどであるが、1ha当たりの材積をどの程度と予測しているのか。 再造林率を80%とした場合、その予測から再造林面積や必要な苗木本数も推測できるので、苗木生産の状況についても教えていただきたい。</p> | | |
| 事務局 | <p>・木材生産については、需要と供給のバランスが重要である。今回は需要側についてシミュレーションして、お示したところである。供給側については、国有林等の見通しを再度調整しながら精査しているところである。 1ha当たりの材積については、伐採する林齢が異なることから一概には申し上げられないが、これまでの実績から、民有林の伐採面積が約2,000haで、ha当たりの材積が500～600m³となっている。植栽は2,000～2,500本植えである。 県内の苗木生産量については、500万～600万本となっており、スギの苗木生産量は日本一である。今回の計画ではコンテナ苗にシフトしながら、700万本までの増産を検討しているところである。</p> | | |
| 委員 | <p>・190万m³は令和12年度の目標値か。又は10年間の平均の目標か。 さらに、達成した場合はどの様になるのか。</p> | | |
| 事務局 | <p>・素材生産量の目標値については、これまで5次、6次計画では増加としてきたが、今計画では、人口減少から木材需要は減少していくと予想し、住宅分野、非住宅分野、海外輸出の対策を進め、七次計画の目標値である190万m³を維持していく計画としたところである。 また、情勢の変化に応じて5年後に見直すこととしている。</p> | | |
| 委員 | <p>・県産材利用促進対策に、「梁や桁の横架材等、県産材が使われていない部材への利用促進」とあるが、本県の施業体系は普通材生産になっており、対応が難しいのではないか。</p> | | |
| 事務局 | <p>・国の統計によると、住宅部材の中で横架材は10%程度しか国産材が利用されおらず、利用量の伸びしろがある代表的な部材として記載したところである。大径材の利用やハイブリッド材として利用するなど需要拡大を目指したいと考えている。</p> | | |

| | |
|----------------------------------|--|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・190万㎡伐採した場合、県内の森林が更新され、需要にも応えられる。さらに循環型の林業につながり健全な森林づくりも可能になると考えてよいか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・木材需要の減少が見込まれる中、需要を確保し県内の経済を維持していく必要がある。併せて資源のシミュレーションを行い、100年後の資源量についても確保できることを確認しており、循環型林業も確立できると考えている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・再造林率80%がポイントになるということか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・現在、実施中のシミュレーションでは、期間を100年後までとして、条件を再造林率70%、80%、90%の3種類、伐採量190万㎡、その80%、120%として計9パターンを考えている。 ・次回、その結果をお示しし、素材生産量190万㎡と再造林率80%の妥当性について説明したいと考えている。 |
| 2 第八次宮崎県森林・林業長期計画（素案）について | |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標が掲げているが、それぞれの取組に対し、不足しているように見受けられる、今後の考え方はどうか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・具体的な施策全てに指標を設けている訳ではなく、代表する指標としている。七次計画までもその施策を代表する指標としているが、今後、検討したい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・プロジェクトの中に、大型トレーラー等が通行ができる林道等の整備、改良等とあるが既に検討されているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・県では森林整備に必要な路網整備に取り組んでおり、具体的には20tトラックが走行できる林道、10tトラックを想定している林業専用道、そして林業機械が利用する森林作業道に区分し整備している。 ・今年度、国からセミトレーラーが走行する道という新たな考えか方が示されたところであり、県としての取組方針を検討しているところである。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・中部地域計画の中に「多様な主体による森林づくりの推進」とありボランティアの立場としては、大変期待している。 ・また、この計画どおりに進むよう、県民全体が「宮崎は林業県である」という意識を持って行動することが大切であり、そこに私達ボランティアの活動も重要と考えている。もっと本腰を入れて「森林を活用する」という意識改革が必要と考える。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・県民参加の森林づくりということで、お答えするが、県では森林環境税を創設して、平成18年から県民全体で宮崎県の森林・林業を支えていただいている。 ・その取組として、ボランティアの支援、広葉樹の植栽、再造林対策、将来の人づくりとして森林環境教育等を実施しているところである。 ・しかしながら、この森林環境税の認知度は1/4程度と低い状態であることから、今後、使途事業の周知を強化するとともに、効果のある取組を展開していきたいと考えている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none"> ・この様な計画は、数値化することで、進捗状況も分かりやすくなる。見える化することが重要である。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none"> ・指標や目標については計画の実行性を担保するものであることから、項目を何にするのか、どの数値を使っていくのか、しっかり検討していく必要があると思っている。 |

| | |
|-----|---|
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">・ 県の計画と市町村の森林・林業の振興計画の整合性はどうなっているのか。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・ 市町村計画においても整合性を図っていくことになると考えている。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">・ 県全体のバランスをとりながら計画を推進し、川上、川中、川下全てが山を守り活かすという循環型の林業、そして10年後を目指し取り組んでいただきたい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">・ 再造林率が一部の地域計画のみしか記載されており、現状が分かりづらい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・ 地域特性については再度、検討したい。 |
| 委員 | <ul style="list-style-type: none">・ 労働安全災害について、記載していただき感謝している。今後の取組についても引き続きお願いしたい。 |
| 事務局 | <ul style="list-style-type: none">・ 全ての産業の中で、災害発生の千人率は林業が突出して高く、木材加工も高くなっている。 SDGsが叫ばれる中、「林業従事者の安全確保」は重要な項目となっていることから、今計画においても労働災害防止は重要な課題として取り組んでいきたい。 |